平成二十五年九月定例会　観光戦略特別委員会委員長報告

八番　寺澤　和男でございます。

私から、観光戦略特別委員会の報告をいたします。

本委員会は、平成二十三年十月に、本市の恵まれた観光資源を活用した観光戦略について調査研究を行うため設置され、昨年九月の再設置以降は、新幹線の金沢延伸を見据えた観光戦略として、重点的調査事項を「ハブとしての長野市の戦略」、「人材育成」、「新たな情報発信媒体の活用、北陸新幹線の動向調査等」の大きく三つのテーマに絞り、調査研究を行ってまいりました。特に、できる限り観光分野の現状を把握するため、四回の委員会にわたり、観光に関わる団体等の関係者を、それぞれ参考人としてお呼びし、意見をお聴きしてまいりました。

本市においては、平成の大合併により新たな観光資源を有することとなりましたが、近年の観光客入込数は、善光寺御開帳の年を除きおよそ一千万人台で推移しており、善光寺一点型の観光形態だけでなく、周遊・滞在型、体験・交流型の観光形態を更に強化することが、本市観光の課題となっております。

このような中、市では、平成二十三年十月に長野市観光振興計画である新一千二百万人観光交流推進プランを新たに策定し、テーマ別キャンペーンを初め、本市最大の観光地である善光寺と、ブランド化に取り組んできた地域を結び付けることなどにより、観光客を増やし、また滞在時間を延長することを目指して、平成二十四年度は、ながの「四季の彩り」キャンペーン、平成二十五年度は、「体験！長野道場」キャンペーンを行うなど、各種事業を展開しております。

平成二十七年に予定されている新幹線の金沢延伸と善光寺御開帳に向けて、現在、ＪＲ東日本による長野駅善光寺口への新駅ビルの建設、本市による長野駅善光寺口駅前広場の整備が進められており、信州観光の玄関口にふさわしい長野駅となるよう期待されているところであります。

新幹線の金沢延伸は、新幹線開業以来、終着駅であった長野駅が通過駅になるとの懸念がある一方で、北陸・関西方面から本市へのアクセスが向上することから、多くの観光客を誘客できる絶好の機会でもあります。

本委員会では、このような現状を踏まえ、更に多くの観光客に本市を訪れていただくため、本市が取り組むべき事項として、去る九月十三日、関係理事者に新幹線の金沢延伸を見据えた観光戦略に関する提言を行ったところであります。

この提言は、新幹線の金沢延伸を見据えた観光戦略に関する事項と、それを展開する上で取り組むべき施策に関する事項の大きく二つに分かれております。

まず、新幹線の金沢延伸を見据えた観光戦略に関する事項について、五点申し上げます。

一点目は、周辺自治体との協力についてであります。

新幹線延伸は、沿線エリア全体が発展するような戦略が重要であり、互いの地域が新幹線延伸のメリットを生かせる、享受できるような広域観光連携を構築し、展開することを提言いたしました。

二点目は、長野駅の利便性の活用についてであります。

長野駅は東京・金沢間の中間に位置すること、また、長野駅においてＪＲ東日本とＪＲ西日本の乗務員が交代するとの一部報道があり、全列車が停車することが見込まれることから、その強みを生かして、首都圏、北陸・関西方面からの観光客の増加につながるような観光商品の開発などに向け、観光関連事業者等と連携を図ることを提言いたしました。

三点目は、長野駅のハブ化についてであります。

長野駅のハブ駅としての役割が向上することが予想されるため、市内の各観光エリアの連携のみならず、広域観光ルートを想定し、二次交通の利便性の向上に向け交通事業者等と連携を図ることを提言いたしました。

四点目は、長野駅の新駅ビルの活用についてであります。

長野駅の新駅ビル内に、本市の土産、特産品の拠点となる店舗あるいはエリアを設けることにより、本市の土産、特産品の情報を発信することができることから、その実現に向けて働き掛けを行うよう提言いたしました。

しかし一方で、新駅ビルで土産を購入する観光客が増えるだけで、市全体に効果が広がらないのではないか、長野駅周辺の土産店や中心市街地の商店がさびれてしまうのではないかと心配する意見もあることから、地元商店の活性化に向けた施策の展開を図るよう要望いたしました。

五点目は、新幹線の呼称等についてであります。

新幹線の長野開業から十五年が経過し、長野新幹線の呼称が定着していることを踏まえ、金沢延伸後も「長野」を残すことで、東京から長野を経由して北陸へ、大阪から北陸を経由して長野・軽井沢へといったルートが明確化されることから、利用者にとって分かりやすい路線となり、沿線エリア全体の魅力が向上し、路線全体の利用拡大につながることとなります。

このことから、新幹線の呼称等に何らかの形で「長野」を残し、また、長野発着の列車名に「あさま」を残す活動を引き続き行うことを要望いたしました。

続きまして、新幹線の金沢延伸を見据えた観光戦略を展開する上で取り組むべき施策に関する事項について、六点申し上げます。

一点目は、新たな観光資源の掘り起こしと既存観光資源の新たな魅力の発掘についてであります。

観光商品をつくる仕組みの構築として、本市の観光が新鮮で、かつ、他の自治体との違いを生むために、観光資源の掘り起こしから観光商品化、旅行業者への素材の提供まで、ながの観光コンベンションビューロー等の関係機関と連携を図り、一貫した仕組みを構築すること。

また、女性の視点や、学生など若年層の新鮮な発想を取り入れること。

さらに、先進地視察を行った田辺市熊野ツーリズムビューローでの成功事例などを参考にして、本市でも、ながの観光コンベンションビューローのインターネットサイト等から着地型商品を独自に販売する施策を検討すること。

長野ブランドの強化として、長野らしい、長野でしか買えないブランド商品（土産品等）を推奨する仕組みづくりを積極的に推進すること。

食の充実として、本市のそば、おやきなどの地元名物料理あるいはリンゴ、桃、ブドウといった果物などの特産品を活用し、観光客に本市の食の魅力、四季折々の旬の味覚を提供する施策を関連事業者と検討すること。

ターゲットを絞った誘客手法として、年代別、性別、個人・団体別のそれぞれに応じた観光ルートの設定を行い、ターゲットを絞った誘客手法に取り組むこと。また、物見遊山的な観光だけではなく、例えば子育て家庭向け、外国人観光客向けなど観光客の特性に応じた体験メニューの充実に取り組むこと。

スポーツコンベンション誘致等の推進として、国際大会や全国的な競技大会、スポーツ合宿などのスポーツコンベンションについて、スポーツを観光の視点から捉え、これらの誘致活動の推進を図ること。

また、本市で開催される会議、集会、研究会などのコンベンションへの参加者に、本市の魅力をより知ってもらうため、地域の文化、歴史、自然などに関して専門家から説明を聞き、参加者も意見を交わすという現地視察、いわゆるエクスカーションをコンベンションと併せて行うよう、会議等の主催者などと一層の連携を図ること。

以上の事項をそれぞれ提言いたしました。

二点目は、観光情報の発信と観光案内についてであります。

長野駅に設置されている長野市観光情報センターについては、新幹線延伸後、首都圏からの観光客に加え、北陸・関西方面からの観光客が増え、観光情報センターの利用者が増加することが見込まれることから、今後予定されているフロア拡張と観光情報提供の機能強化にあわせ、職員の増員と開館時間の延長を行うこと。

また、インバウンド対策として、外国人観光客の誘致が好調なことから、より一層の誘客を図るため、外国語の多言語化への対応を検討すること。

新たな情報発信媒体の活用として、フェイスブックなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス、いわゆるＳＮＳを活用し、国内外への観光情報の発信に一層取り組むこと。

イベントの開催として、新幹線延伸については、多くの報道機関が全国に情報を発信するため話題性があり、新幹線延伸に向けたイベントを行うことは効果が高いこと

から、例年以上の予算を確保してイベントを開催すること。
観光案内表示の整備として、長野駅から中心市街地周辺の観光案内表示については、例えば表示板の形や文字を大きくしたり、トイレの標識に共通マークや外国語表記を取り入れたりするなど、観光客にとって分かりやすい観光案内表示となるよう、より一層の整備を図ること。
以上の事項をそれぞれ提言いたしました。

三点目は、人材育成についてであります。
観光行政スペシャリストの育成として、観光振興課に設置されている観光戦略室が更なる主体性を発揮するため、観光行政に熱意と専門性を持った人材を配置、育成するとともに、民間との交流や渉外折衝ができる人材の育成を図ること。
市民によるおもてなしについては、民間団体において、おもてなしの向上を図る活動が行われております。本市を訪れる観光客への温かいおもてなしは、観光都市としての魅力を高め、本市に何度も訪れていただくことにつながることから、民間団体との連携と、その活動に対する支援を検討すること。
市民観光ボランティアの育成として、本市をより深く、より楽しく知っていただくためには、地元の語り部として市民観光ボランティアが果たす役割は大きいものがあります。長野市善光寺表参道ガイド協会の設立など着実に市民観光ボランティアの育成に取り組んでおりますが、引き続き、市民観光ボランティアの活動を積極的に支援し、人材の育成を図ること。
以上の事項をそれぞれ提言いたしました。

四点目は、広域観光連携の推進についてであります。
多様な広域観光の連携として、信越観光圏、北陸新幹線停車駅都市観光推進会議等の広域観光連携に加え、立山・黒部アルペンルート、上高地、軽井沢などから本市へ、あるいは本市からそれらの地域への広域観光ルートを想定し、より多くの観光客に本市を訪れていただけるよう関係機関との連携を図ること。
インバウンド対策の強化として、アメリカやオーストラリアなど英語圏からの誘客の促進に加え、北陸はアジア各国からの空路が直結しているため、新幹線延伸の効果を生かし、富山空港や小松空港に到着する外国人観光客を誘致するインバウンド対策の強化を図ること。
集客プロモーションパートナー都市協定を締結した自治体とのより緊密な連携として、同協定については、上越市、金沢市、甲府市、静岡市、富山市の他、本年八月には福井市と締結しており、その内容は、相互にポスター、広報紙等に観光情報を掲載することなどであります。また、北陸新幹線停車駅都市観光推進会議の取組は、共同プロモーションの実施をその主な目的としております。
これらの取組は、一定の評価はできるものでありますが、新幹線延伸後には沿線エリアとの更なる連携が必要になることは言うまでもありません。交流人口の増加を図

るため、広域観光ルートの設定、観光商品の共同開発など、より踏み込んだ施策の展開を図ること。

長野駅東口バス待機場の活用として、同バス待機場を最大限に活用し、観光バスや貸切バスを生かした広域観光の推進を図ること。

以上の事項をそれぞれ提言いたしました。

五点目は、事業効果を意識した施策の実施であります。

観光分野における事業効果の測定は非常に難しいことではありますが、観光キャンペーン事業など各種事業の目標値の達成度あるいは事業効果を意識し、施策の実施に努めるよう要望いたしました。

六点目は、現在、ＪＲ東日本による長野駅善光寺口への新駅ビルの建設、本市による長野駅善光寺口駅前広場の整備が進められておりますが、工事期間中に本市を訪れる観光客が不便な思いをすることがないよう、工事案内表示、観光案内表示等については十分配慮するよう要望いたしました。

理事者におかれましては、これらの提言事項を各事業に取り入れ、早期に実施するよう要望するものであります。

さらに、本市の観光をより一層充実させるため、観光振興の担当部局だけではなく、関係部局が連携、調整を図り、組織全体として観光行政に取り組んでいく必要があることから、観光振興課に設置されている観光戦略室の機能強化も含め、観光振興を推進するための庁内の協力体制や役割分担について、長野市議会において、今後更なる調査研究が必要と考えております。

最後に、平成二十七年の新幹線の金沢延伸と善光寺御開帳は、本市に何度も訪れていただく、本市に立ち寄っていただく絶好の機会であります。

また、先般、平成三十二年の夏季オリンピック・パラリンピックが東京で開催されることに決定いたしました。冬季オリンピック・パラリンピックの開催都市として最大限の協力、支援を行うとともに、この機会に、「おもてなし」など本市の魅力を改めて世界にＰＲし、積極的に観光施策を展開していくことが、地域経済の活性化にもつながっていくものと考えます。

今後、長野らしさをより一層追求し、本市の観光に更に磨きをかけるような積極的な取組を、大いに期待するものであります。

以上で報告を終わります。